様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年　６月３０日現在

研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2006～2008
課題番号：１８７３０５３５
研究課題名（和文）　鑑賞教育を支援する「デザイン・ライブラリー」システムの開発研究

研究課題名（英文）　Development of a Design Library System Supporting Appreciation Education

研究代表者
齋藤　学（SAITO MANABU）
山形大学・地域教育文化学部・准教授
研究者番号：５０２９６０３４

研究成果の概要（和文）：名作椅子を用いた“体感型”鑑賞教育プログラムは、一般的な“見る”鑑賞に比べ、生活におけるデザインの働き（形状・素材・色・機能など造形の諸要素の関係性）について理解が得やすく、その学習効果の優れた特性が認められた。また、本プログラムをシステム化し効果的に運用（教材の管理とアウトリーチ）していくためには、地域における学校間の連携と、自治体、公共施設、非営利団体、企業等の支援体制の整備が不可欠となる。

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	1,200,000	0	1,200,000
２００７年度	1,400,000	0	1,400,000
２００８年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総　計	3,600,000	300,000	3,900,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教科教育学
キーワード：美術教育、鑑賞、デザイン、工芸、教材開発

１．研究開始当初の背景

現行の学習指導要領（平成 10 年告示）において、小学校・中学校・高校を通して「鑑賞」による指導の充実が求められているが、「本物の作品」と直に向き合える機会を提供することは、他の如何なる教材(写真図版・映像資料等）を駆使しても味わい得ない、教育効果をもたらすことが期待される。また、美術館や博物館等の積極的な活用が推奨されていることもあり、絵画や彫刻作品、歴史的文化財については、施設へ直接足を運んで実践される場面は確実に増加している。

この「本物の鑑賞」をより一層充実した実践とするために、「デザイン」や「工芸」に関する鑑賞については、日常生活において使用する製品や作品がその対象として取扱われることより、社会における美術やデザインの働きを理解するためにも、見るだけの鑑賞ではなく、実物に触れ、実際に使ってみる鑑賞の機会が必要であると考える。

２．研究の目的

本研究では、色や形の工夫のみに留まらない、より本質的なデザインの役割の理解に資

するべく、デザイン・工芸作品の貸出システム『デザイン・ライブラリー』ならびに実際の授業で使用できる鑑賞プログラムの開発を目指し、その学習効果と特性について検証を行う。

３．研究の方法

(1)普通教育におけるデザインおよび工芸の学習状況に関する調査と現況分析

①教科書ならびに教師用指導書を調査・分析した。（日本文京出版，開隆堂，光村図書）

②中学校および小学校教員からデザイン・工芸領域の鑑賞題材の取扱いに関する聞き取り調査を行った。

③大学１年次生を対象にしたデザインの既習内容に関して調査を行った。

(2)実物教材を用いた“体感型”鑑賞教育プログラムの開発と検証

①山形大学附属中学校においてモデル授業を実施し、プログラムの基本設計ならびに実物教材の選定を行った。

②学会および各種教員研修会等において、モデル授業を公開し、検証と評価を行った。

③汎用性を高めた実践プログラムを開発し、協力校において検証を行った。

(3)作品貸出システム『デザイン・ライブラリー』の開発と検証

①システム運用における実施協力機関の調査と実施業務の設計を行った。

②貸出作品のデータベース化と利用マニュアルを作成した。

③システムを外部へ公開し実施検証を行った。

４．研究成果

(1)普通教育におけるデザインおよび工芸の学習状況に関する現況について

現行の中学校美術教科書において、３社とも「身近な生活」を機軸に「エコ」「やさしさ」「ユニバーサル」「伝統と未来」などを切り口に、デザインや工芸の学習題材を掲載している。また、教師用指導書にも、実物教材の提示が推奨されており、聞き取り調査においても、多くの教員が身近にある製品を用いて教材化を試みている。

また、現在、大学へ入学する者の多くは、こうした現行の学習指導要領のもとに教育を受けてきた世代であり、2007 年～2008 年に大学１年生（169 人）を対象に実施した調査において、“デザイン”とは「①独創的なアイディアを発想すること：33%」「②生活を楽しくすること：23%」「③使いやすさを工夫すること：18%」など、その社会に果たす役割の広がりについての認識が深まりつつあるといえる。（＊８つの選択肢から１つ選択:「④美しい色や形を創造する：14%」）

しかし、その一方で、デザインに関する多くの情報はマスメディアから得ており、「デザインの先進地」や「既知のデザインジャンル・デザイナー名」を問う設問については、パリ、ニューヨークを中心とするファッションに纏わるものが圧倒的であり、日本各地で培われてきた優れたデザインの文化や産業に対する関心や知識は低いと言わざるを得ない状況にある。このことは、新学習指導要領（平成 20 年 3 月告示）における改訂のひとつの柱であり、本研究のプログラム開発においても、山形を代表する地域産業としての「家具」が紹介できるよう十分留意して取り組んでいる。

(2)実物教材を用いた“体感型”鑑賞教育プログラムの開発と検証について

山形大学附属中学校／伊藤亮教諭との共同研究として、美術科を核とした「総合的な学習の時間」（10 時間計画）を、モデル授業として分析し、プログラムの基本設計ならびに実物教材の選定を行った。（2006 年 10 月～12 月／第 2 学年，4 クラス，158 名）

モデル授業においては 17 脚の実物の名作椅子（デザイナーズ・チェア＋1 脚）を用いて、初めに“STEP1”として「見る」活動だけを促し、気に入った椅子を選択させた。結果は、外観の美しさや面白さを観点とした選択であり、生徒の反応は図１に示すように，プラスチック（樹脂系）製の自由なフォルムでデザインされた椅子（⑩⑯）に高い反応を示した。また、見た目だけでくつろいで座ることが識別できる寝椅子（Ny Chair X シリーズ ⑪⑫）も票を集めている。生徒の選択の判断としては、「格好がいい」「綺麗である」「自分の部屋に置いてみたい」という意見が多くあげられた。

次に“STEP2”として、実際に座るという活動を通して椅子の選択を行った。この活動では，STEP1 で高い反応のあったプラスチック製の椅子は票数を落とし、木を主材としたイームズの椅子（③⑨）が多くの票を集めることとなった。ここでの生徒の声としては、「座り心地がよい」「肌触りがよい」が圧倒的な意見であった。また、STEP1 でも票を集めた Ny Chair X シリーズが、同様の意見から高い人気を示している。自分たちの選択結果の変化に生徒自身が驚きを持ち、今後の授業への意欲が高まったととらえた。

この後、以下のテーマについて学習を重ねた。「椅子の歴史について理解する」「椅子の魅力・よさとは何かを考え意見交換」「人体寸法データと椅子のプロトタイプをもとに人間工学について知る」「自分の体の寸法を計測し自分の体にあった椅子の寸法を導き出す」「高齢者や妊婦の疑似体験を行いユニバーサルデザインとグッドデザインの違い

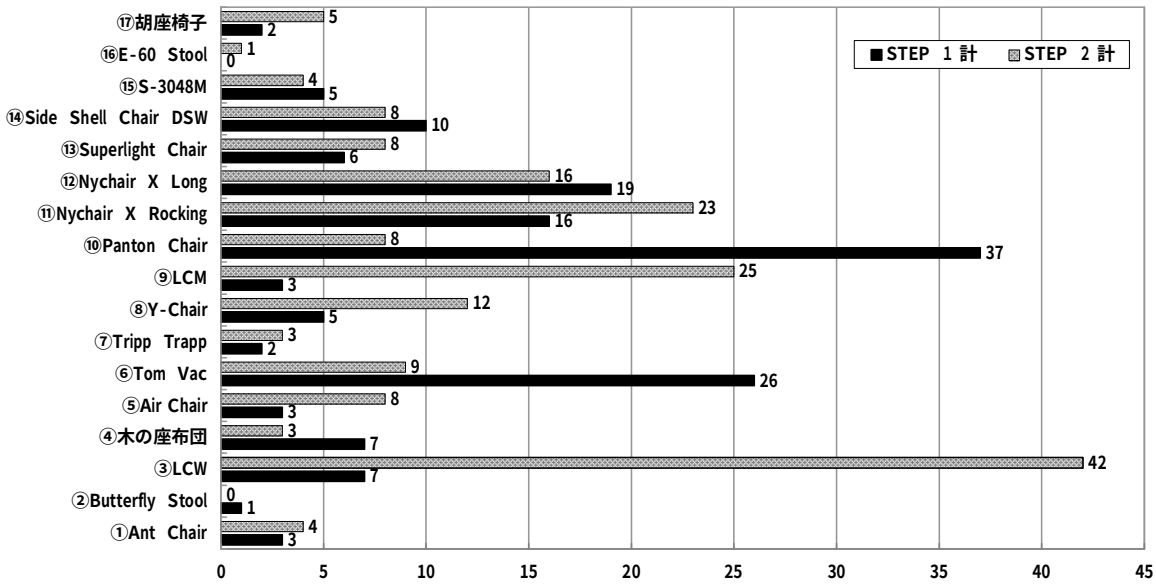

表１ 椅子との出会い：STEP1 と STEP2 の比較

＊詳細は「平成18年度大学と附属学校園の共同研究報告書」，山形大学，pp.48-53に掲載

について考える」「椅子のデザイナーの方からお話を伺い製品化のポイント等について理解する」「これまでの学習をもとに『私の一脚』を選択する」「『私の一脚』について発表を行う」

最後の活動となる『私の一脚』の選択の前に、再びコンセプトマップをまとめさせたところ、選択するための観点の順位に変容が見られた。当初は「①見た目（外観のデザイン性）」「②座り心地（機能性）」「③価格」であったが、ここでは「①座り心地（機能性）」「②ユニバーサルデザインへの配慮」「③見た目（外観のデザイン性）」へと変化した。また，最終的な『私の一脚』の選択においても，自分が使いたい椅子としての観点が大半を占めたが、「家族のために」「離れてすむ祖父母のために」というような観点も見られた。

この「名作椅子」を使ったプログラムの検証をもとに、2007年度は「はさみ」および「特定デザイナーの開発製品」を鑑賞教材に加え、ひきつづき附属中学校、教員研修会、デザインおよび美術教育の関連学会において検討したところ、結果的に「椅子」の優位性とニーズの高さが認められたため、2008年度からのシステム運用に向けて、貸出し教材を「椅子」に絞込み、形状・材質・歴史・デザイナー・生産地等の条件を鑑み、最終教材の選定を行った。

なお、汎用性を高めたプログラムとするために“体感型”鑑賞を中心に「椅子の歴史について理解する」「椅子の魅力・よさとは何かを考え意見交換」「これまでの学習をもとに『私の一脚』を選択する」「『私の一脚』について発表を行う」の各場面要素を組み込んだ50分の基本プログラムを作成した。

(3)作品貸出システム『デザイン・ライブラリー』の開発と検証について

学会ならびに関連展覧会、体験型研修会（ワークショップ）等の実地調査において、大都市部を中心に、民間（企業および任意団体等）でのデザインに関する学習機会の提供は確実に増加傾向にあることを把握している。しかし、学校おいては、これらのサービス利用のための受け入れ環境が整備されておらず、展示・活動場所の確保や管理の安全性に関わる問題が明らかになった。

この結果を踏まえ、2007 年度より公共施設（公民館等）との協力体制の構築について調査を始め、米沢市上杉博物館での受入が得られた。また、地元家具メーカー（株式会社多田木工製作所）の協力を得たことにより、購入が適わなかった名作椅子の貸与と、各学校への配送（搬出入）が低額で実施できることとなった（2008 年度は 6 脚の貸与と博物館までの搬入出の支援を得た）。加えて、2008 年度から山形大学に配備されたアルミパネル付き公用トラック（サイエンスカー）の利用が出来るようになったことを含め、システム運用のためのハード面の整備が整った。

システム運用の検証のために、立地環境の異なる 2 つの中学校をモデルに授業実践を行った。課題のひとつであった、学校における展示空間および管理上の安全確保については、上杉博物館で約 1 ヶ月の展示期間を設

定することができ、この期間中に近隣に立地する米沢市立第二中学校（市街地）／飯島広美教諭と授業を実践し，その成果を域内教員研修会（置賜地域）において紹介し評価を行った。この研修会後に、もうひとつの課題としていた遠隔地域へのアウトリーチ（ローン・サービス）について、南陽市立吉野中学校（へき地１級）／小林英美子講師から申出があり、上杉博物館のマネジメントにおいて実施した。両授業ともスケジュール調整、作品データベース資料の提供と利用状況、費用等について検証を行い、年間あたりの対応可能数について試算した。

(4)評価および今後の課題

“見る”鑑賞や“触れる”鑑賞に比べ「椅子」を用いた身体感覚（全身）を通しての“実感”がともなう鑑賞の学習効果（特徴・優位性）について、学会、教員研修会はじめ、多方面の専門識者に対し紹介し、絵や彫刻の鑑賞実践に比べデザイン領域の研究事例の少なさも含め，その先進性に対して一定の評価を得ている。

ただし、2008 年度までの検証では、通常授業としてのカリキュラム編成が間に合わず、選択美術（米沢二中）および年１回の全校合同美術（吉野中）の授業としての検証に留まった。このため、2009 年度も継続して、長井市立北中学校／須田一成教諭と米沢市立第二中学校／飯島広美教諭の協力を得て、通常授業においてその汎用性について検証を行った。加えて、西置賜地区造形専門部会授業研究会ならびに米沢市小学校図画工作部会研究会においてプログラム利用の申入れがあり、より多くの実践・検証の機会を得ている。

今後、新学習指導要領が全面施行される 2012 年までに、山形県内一円に向けて『デザイン・ライブラリー』システムの普及にあたっていく予定であるが、米沢・置賜地域での検証のとおり、地域における教員研修組織を基盤とする学校間の連携と、地域の核となる公共施設との提携は必須であり、自治体、非営利団体、企業等を含めた支援体制の整備に尽力していきたいと考える。

［附属中学校以外での検討機会］

・平成 18 年度教職 10 年経験者研修（2006.8）
・西村山学校教育研究会図工部会（2006.11）
・平成 19 年度教職 10 年経験者研修（2007.7）
・山形市立鈴川小学校校内研究会（2007.8）
・第 71 回東村山地区児童生徒図画作品展作品研究会（2007.9）
・第 57 次山形地区教育研究合同集会図工・美術と教育（2007.10）
・JIDA デザインミュージアムフェスティバル ’07 デザインフォーラム（2007.11）
・第 2 回日本デザイン学会 第 1 支部大会「デザインの初等教育を考える」（2007.12）
・平成 20 年度教職 10 年経験者研修（2008.8）
・世田谷区生活文化情報センター トークセッション「こどもとデザイン」（2008.10）
・第 47 回大学美術教育学会（2008.11）
・置賜地区中学校美術部会研究会（2008.12）
・美術科教育学会工作工芸領域部会 工作工芸研究会（2009.3）

［名作椅子リスト（選定教材）］

1. ひも椅子/渡辺 力(**)
2. エレファントスツール/柳 宗理
3. バタフライ・スツール/柳 宗理(*)
4. ペリアンチェア（オンブルチェア）/シャルロット・ペリアン(*)
5. 低座椅子/板倉建築研究所（担当：長大作）
6. ナカシマラウンジチェア/ジョージ・ナカシマ(**)
7. 桐小椅子/米山 彰二(*)
8. ハニーポップ/吉岡 徳仁
9. オリヅル/奥山 清行(*)
   [フォールディングチェア（ベーシックタイプ）] (**)
10. TM-４３６０/多田木工製作所(*)
11. [KH-１０１０/菅原デザイン(*)]
12. 積層MDFチェアー（TM-６０７５）/鈴木 敏彦(*)
13. トーネットNo. １４（カフェチェア）/ミヒャエル・トーネット(**)
14. レッドアンドブルー/ヘリト・トーマス・リートフェルト(**)
15. Ｓ３３/マルト・スタム
16. LCW/レイ&チャールズ・イームズ
17. LCM/レイ&チャールズ・イームズ
18. DCM/レイ&チャールズ・イームズ
19. スモールダイアモンドチェア/ハリー・ベルトイア
20. ヴァレットチェアー/ハンスＪウェグナー(**)
21. スーパーレジェーラ/ジオ・ポンティ(**)
22. メッツァードロ/アッキレ・カスティリオーニ＋ピエル・ジャコモ・カスティリオーニ
23. パントンチェア/ヴェルナー・パントン/ヴェルナー・パントン
    パントンチェアク（ラシックタイプ）(**)
24. ウィグルサイドチェア/フランク・オーウェン・ゲーリー［クロスチェックアームチェアー］
25. プライチェア/ジャスパー・モリソン
26. エアチェア/ジャスパー・モリソン
27. ソフトシム（ロータイプ）/ジャスパー・モリソン
28. トムバック/ロン・アラッド
29. ゼロスリー/マールテン・ヴァン・セーヴェレン
30. ミラチェア/ジャスパー・モリソンタジオ7.5
31. チェアワン/ジャスパー・モリソンコンスタンチン・グルチッチ
32. アイコンチェア/フィリップ・スタルク
33. パントンジュニア/ヴェルナー・パントン

(*)山形県産品
(**)株式会社多田木工製作所 提供（貸与）[08 年のみ貸与]

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
①齋藤学、普通教育における“デザイン”の意味の再生に向けて、東北芸術工科大学こども芸術教育研究センター研究紀要『こども芸術教育研究』、査読なし、Vol.4、2009、pp.85-91

〔学会発表〕（計４件）
①齋藤学、デザイン・工芸の鑑賞における実物教材
美術科教育学会工作工芸部会、
平成 21 年 3 月 25 日、大阪教育大学
②齋藤学、デザイン・工芸の鑑賞における実物教材の効果に関する研究、大学美術教育学会、
平成 20 年 11 月 3 日、高知大学
③齋藤学、学校教育におけるデザインの位置
図画工作から“デザイン”がなくなった？、
もってくてんトークセッション「こどもとデザイン」
平成20年10月13日、世田谷文化生活情報センター
④齋藤学、学校教育におけるデザインの位置、
第 2 回日本デザイン学会第 1 支部大会、
平成 19 年 12 月 22 日、東北芸術工科大学

〔その他〕
アウトリーチ情報
山形大学地域教育文化学部ホームページ
出張講座テーマ一覧
http://www.e.yamagata-u.ac.jp/renkei_shuccho2.html
座って体感！名作椅子でデザイン鑑賞

ホームページ等
http://www.monoiku.jp/

６．研究組織
(1)研究代表者
齋藤　学（SAITO MANABU）
山形大学・地域教育文化学部・准教授
研究者番号：50296034